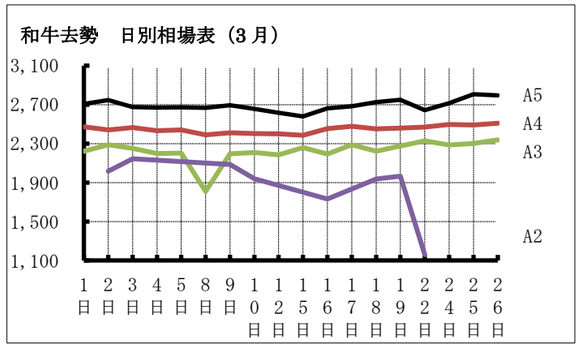
月刊 しばうら

2021年 4月号

牛肉営業部

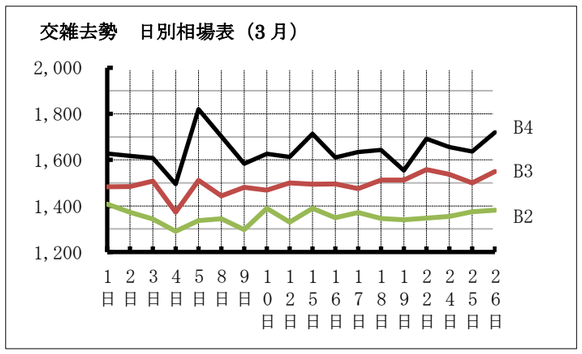
＜3月の相場動向＞

例年であれば 3 月は多くの企業が決算を迎え、相場も一服する傾向にあるが、今年の枝肉相場は和牛・交雑ともにジリ高で推移し、とりわけ和牛の 3、4 等級と交雑牛は高騰する相場展開となった。末端需要は引き続き低迷していたものの、冷凍保管事業や輸出需要などに加え、月の後半は上場頭数が少なかったこと等が高値の要因となっている。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,811 円	＋469 円	120.0%	＋111 円	104.1%
A4	2,602 円	＋745 円	140.1%	＋156 円	106.4%
A3	2,415 円	＋749 円	145.0%	＋187 円	108.4%
A2	2,201 円	＋721 円	148.7%	＋322 円	117.1%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,734 円	＋213	114.0%	＋109 円	106.7%
B3	1,612 円	＋274	120.5%	＋111 円	107.4%
B2	1,477 円	＋338	129.7%	＋129 円	109.6%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	－	－	－	－
B2	963 円	－12 円	98.8%	＋38 円	104.1%

＜4月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、2 月の輸入量は前年同月比 10.8%減の 3 万 7,331 t で、うちチルドは 6.7%減の 1 万 7,894 t 、フローズンは 14.3%減の 1 万 9,437 t となり、チルド・フローズンともに前年を大きく下回った。チルドは豪州産の出荷量の減少や米国産の入船遅れが、フローズンは豪州産の減少と米国産の SG 対応で通関を抑えたことなどが要因となっている。

農畜産業振興機構によると 4 月の牛肉輸入数量は、前年比 29.7%減の 4 万 8,500t で引き続きの減少と予測している。内訳はチルドが 21.1%減の 2 万 2,300t、フローズンは 35.7%減の 2 万 6,200 t で、入船遅れの影響や現地価格の高騰により前年同月を大きく下回る予測をしている。

輸入牛肉通関量		2 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,793	6,894	98.5%
	米国	9,225	10,263	89.9%
	その他	1,876	2,028	92.5%
	合計	17,894	19,185	93.3%
フローズン	豪州	8,298	10,138	81.9%
	米国	7,494	8,205	91.3%
	その他	3,645	4,339	84.0%
	合計	19,437	22,682	85.7%

出典：食肉速報　　単位：t

＜4月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 4 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 5.3%増の 8 万 9,400 頭で、品種別にみると和牛は 12.4%増の 4 万 1,600 頭、交雑種は 5.3%増の 1 万 9,800 頭、乳用種は 4.1%減の 2 万 6,500 頭と予測している。

和牛及び交雑種は昨年がコロナ禍で相場が低迷し出荷頭数が減少した反動で増加、乳用種は引き続きの減少と予測しているが、成牛全体で見ると一昨年（2019 年）との対比では 2.2%の減少となる見込み。

東京食肉市場の 4 月のと畜頭数は 7,600 頭を予定しています。

＜3月の牛枝肉相場見通し＞

緊急事態宣言が解除されたものの、新型コロナウイルス感染症の“第 4 波”が懸念され、ホテル関係や接待交際向けの高級飲食店は引き続き厳しい状況が続くと思われる。一方で自粛生活の反動や大型連休等の行楽シーズンを迎えることで、ファミリー層向けにモモ・バラを中心とした焼材や切り落とし材等の低価格部位は需要が見込まれる。

新型コロナウイルス感染症による収入減の影響等から、昨年同時期よりも国内消費力は弱いものの、海外輸出は堅調に動いており、国の支援事業の効果もあることから、枝肉相場は引き続き高値圏を維持するものと思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800～2,900	B4	1,750～1,800
A4	2,600～2,700	B3	1,650～1,700
A3	2,450～2,550	B2	1,550～1,600
A2	2,300～2,400		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

豚肉営業部

2 月の全国と畜頭数は、前年同月比 1.1%増の 133 万 6,874 頭。また、2 月の豚肉通関数量は 6 万 4,257t（前年同月比 4.1%減）と前年同月を下回り、前月比でも 3.6%の減少。内訳はチルドが 3 万 1,653 t （9.6%減）と減少した一方、フローズンは 3 万 2,604t（1.8%増）と増加した。

2020-2021 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
比	100%	96%	99%	87%	102%	90%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

1 月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	14,810	88.3%	デンマーク	4,807	111.0%
カナダ	15,566	89.2%	スペイン	6,512	92.4%
メキシコ	1,276	160.9%	メキシコ	7,652	112.8%
			アメリカ	3,289	94.5%
			カナダ	2,487	136.5%
合計	31,653	90.4%		32,604	101.8%

単位：t

＜3月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	67,300	496	460	785
2 日	67,300	493	449	918
3 日	64,500	505	453	749
4 日	67,700	514	481	716
5 日	64,600	509	470	814
8 日	61,900	512	469	784
9 日	68,700	510	479	825
平均	66,000/日			799/日

全国と畜頭数は概ね 6 万頭台で推移した。相場は 3 日以降上物 500 円を上回る展開となり、内食需要増加の影響により堅調で底堅い状況となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10 日	63,500	512	469	656
11 日	67,500	505	468	759
12 日	61,900	491	467	845
15 日	68,900	474	445	722
16 日	66,400	473	451	843
17 日	64,800	485	435	742
18 日	65,300	468	433	742
19 日	63,000	450	406	983
平均	65,163/日			787/日

相場は緩やかに下落し、上中価格差も開きが大きくなった。需要は引き続き内食中心だが、一時期の強い巣ごもり需要は落ち着き、引き合いは以前に比べて弱まってきた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22 日	67,600	430	398	728
23 日	67,200	441	409	832
24 日	63,900	449	421	619
25 日	64,800	435	412	623
26 日	60,200	457	419	825
29 日	60,900	453	423	671
30 日	64,300	464	434	842
31 日	62,100	495	461	624
平均	63,875/日			721/日

緊急事態宣言は解除されたが、需要が引き続き内食中心であったことにより、量販店からの引き合いは堅調だった。

しかし、学校給食が終わったことに加え、決算期ということもあり、相場は軟調な展開となった。

＜4月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による 4 月の肉豚出荷予測は 136 万 7,000 頭（前年比 94%）と予測している。当市場の 4 月集荷予定頭数は 1 万 7,000 頭、1 日あたりでは約 810 頭を見込んでいる。

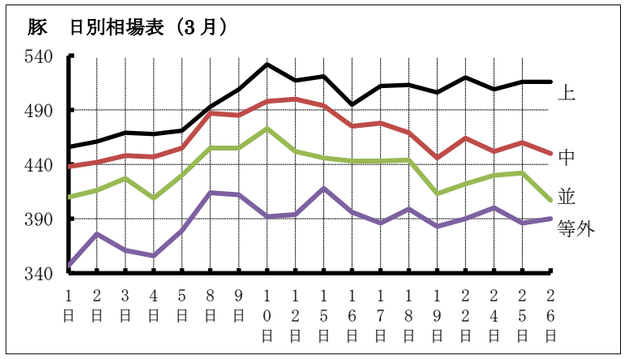
農畜産業振興機構によると 4 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 1,300t（前年比 80%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 5,400t（同 94.1%）、冷凍輸入量は 4 万 5,900t（同 71.8%）と予測している。

冷蔵品輸入量は、新型コロナウイルス感染症の影響による北米からの入船遅れが引き続き発生する中、一部工場の稼働停止による供給量の減少や、飼料価格高騰による現地価格の高騰から、前年同月をやや下回ると予測する。また、3 ヵ月平均は前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

冷凍輸入量も同じく北米からの入船遅れが引き続き発生する中、前年の輸入量が多かったこともあり、前年同月を大幅に下回ると予測する。なお、3 ヵ月平均でも前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

4 月は例年ならば入学式や行楽による需要が見込まれるが、今年は外出自粛ムードにより引き続き内食需要が底堅く推移することが予想され、例年のような盛り上がりは期待できない。今後の新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、4 月後半にかけてゴールデンウィークに向けた手当て買いの動きが強まり、相場は一時的に高値となる可能性も考えられる。また、供給面では 2 月、3 月出荷の早出し傾向がどの程度影響してくるかにもよるが、やや少なめの出荷頭数になる見通しだ。

以上のことから、当市場の上物平均価格は 500 円前後、中物平均価格 480 円前後の展開と予想する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127